

ちよだアートスクエアへの期待

稲岡 稔

ちよだ、あるいは千代田区の地域は、過去400年間わが国の政治、行政、司法の要となる機関が置かれ、明治以降は多くの大企業が本社を置いてきた。

当然、それらにかかわってきた人たちがこの地に住み、あるいは仕事をして、それぞれの歴史をつくってきた。

近世、近代日本史の現場の多くがちよだであったし、日々日本の現代史がちよだで作られている。

これを政治、行政、司法、経済といった視座ではなく、人々が生きた場として考えるなら、わが国の他の地域には例のない、狭いけれども特異で、濃密な文化圏である。

さまざまな文化が残され、さまざまな芸術が生まれ、また愛され、楽しまれた。

これらはわが国の、また世界のかげがえのない遺産である。

今回「ちよだアートスクエア」の構想が固まったことは、この提言にあるように「文化的・歴史的に貴重な財産を多く持つことから、それらを有効に活用する」と同時に、未来へ向けて「人々の生活の質を高める役割」を果たす場をつくることとして、極めて意義深いことであり、大きな期待をもっている。

「ちよだアートスクエア」という拠点をつくる、と決まったことこそがまさに画期的で、既に大きな成果であると考えている。

提言でも歴史、文化を継承し、新しい文化を創造する活動として、さまざまな切り口からの企画、事業、あるいはイベントが考えられている。担い手にも不足はないのであって、区内外のさまざまな場、大学、企業などの知の場と交流しあえば、さらに大きな波となって広がることであろう。

区内で働く者のひとりとして、何とも心躍る、楽しみな構想である。

400年のちよだの歴史、そして未来へ向かっての感動と優しさの場―楽しみであり、オープンが待たれることである。

(株式会社 イトーヨーカ堂 取締役)

私のイメージするちよだアートスクエア

門田 けい子

平成17年9月から始めました「ちよだアートスクエア検討会」に参加させていただきました門田けい子です。「文化」という広い間口から入る千代田の文化活動拠点イメージづくりは、たいへん難しく感じましたが、昨年12月、旧池尻中学校「ものづくり学校」を訪問見学することで、おぼろげながら休廃校利用による活動をイメージすることができました。

私のイメージする「ちよだアートスクエア」は、3つの要素を合わせ持つ文化活動のショーケースと位置付けました。

第1は、国際的な活動の場であること。各国の大使館は自国の文化情報を大使館の外へ効果的に発信することに苦慮しています。また、自国のアーティストの制作場所を東京で探し求めています。そこで、教室の一部を在京の大使館に貸し出し、その国の文化広報センター機能とその国の滞在アーティストのスタジオとして利用してもらう。

第2は、地域の産業や文化の創造活動の場であること。神田の古本屋街、出版、製本関連の企業と連動する印刷文化継承拠点として、古書や活版印刷機の保存と活用によるアートブック制作工房、また、秋葉原は国内外の専門性が高い人々が集まる街であることから、製作工房もショーケースに包含する。

第3は、千代田区のコミュニティ・コアの役割を担う情報発信拠点であること。そのためには人を集め、交流できるギャラリー空間と、効果的な広報活動のためのインターネット放送局の開設が重要である。各国大使館の文化情報、アートスクエア活動情報、区内の史跡、文化人活動情報をバイリンガルで発信し、区内外の人々に活動を周知させながらコミュニティ・ネットワークの強化も図る。

国際都市として安全な街づくりはグローバル化の時代の新たな課題です。「ちよだアートスクエア」は、国際的な相互理解の役割を果たしながら、普段の地域情報の効果的な発信と共有化は安全な街づくりも期待できると考えます。

(産業人文学研究所 代表理事)

アートスクエアが目指すもの

木元 尚男

日本は、単なる物作り産業の国から、知的財産を生み出す国へと国家戦略を大きく方向転換している。

2002年2月4日、小泉首相は施政方針演説の中で「わが国は、既に、特許権など世界有数の知的財産を有しています。研究活動や創造活動の成果を、知的財産として、戦略的に保護・活用し、我が国産業の国際競争力を強化することを国家の目標とします。」と宣言、内閣総理大臣を本部長とする「知的財産戦略本部」を発足させた。このプロジェクトの陰の推進役は安倍さんであったと聞いている。とすれば、この国家戦略は安倍内閣において更に前進されると期待したい。

知的財産を生み出す原動力は、考察する心を伴う文化的、芸術的感性である。それが文化的知的財産をも創出し、科学技術発展の芽を育てる源泉ともなるのではないだろうか。

アートスクエア構想は、まさに日本の国家戦略にも合致し、これからの日本が大きく羽ばたく拠点構想として、その重要性が問われるものとなっていくものと思う。

しかし、理念は高く掲げるとしても、我々の作業は、石を一つ一つ積み上げていくような地道な活動である。

文化のコアの部分は、いかに生きるかを実現しようとする「人々の生活」の中にある。今、その生活の中で、精神の豊かさ、やさしさを表現する「江戸しぐさ」が話題になっている。このような、かつての日常生活から生まれ、今に生きる我々の日常生活を支える視点からの主題「江戸しぐさ」を、アートスクエア事業企画の主体として絞り込み、今後の検討対象としては如何かと考えている。

具体的な事例

1. 文化体験学習会

「江戸しぐさ」「伝統礼法」「近代礼法」「茶の湯」「冠婚葬祭」「食文化」「節句」等々、日本人の心に復活させ、日常の中で活かしていきたい。

例えば江戸文化の研究者、専門家を招き、またその研鑽の場に伺い、知識を深め、その知識を共有することのできる学習フォーラムを開催する。

2. 江戸文化セミナー

江戸、千代田区に関するものに限定した企画。例えば、栄養学的にも感服するほどの「江戸料理の知恵」。また大量消費型生活から再利用型生活へ回帰するための、「江戸庶民の知恵」を学習する企画など。

アートスクエアは、そのような情報を発信する場でありたいと願うものである。

(文化芸術協会理事長)

「ちよだアーツスクエア」によせて

白井 衛

私は、千代田区の在住者ではないが、学生時代から千代田区にある学校に通い、就職も千代田区に本社を構える会社に勤務し、通算30年以上、在学・在勤者として過ごしてきた。自分の人生で過ごした時間は、千代田区内で過ごした時間が圧倒的に多く、私自身、立派な千代田区民だと自負している。また職業柄、千代田区内には、多くの取引先が存在し、多くの施設、飲食店や書店を利用し、休日には書店街で古書を探したり、絶版になり、レンタルビデオ店にもないお宝映像を発見したり、また季節のいいときには花見を始め、皇居の散策など千代田区を十分に謳歌している。

また千代田区ほど、千代田区ならではの多い区もない。皇居をはじめ、日本最大の電気の街「秋葉原」、行政の中心「霞ヶ関」、政治の中心「永田町」、そして「東京駅」など枚挙にいとまがない。そこで、アーツスクエアの精神でもうひとつ、千代田区ならではのものを提案したいと思う。ご存知の通り、千代田区には多くの出版社、製本屋、紙屋、書店がその居を構えている。使わなくなった学校を利用して、「雑誌専門の図書館」を創ってみてはどうだろうか。日本ほど多くの雑誌が発行されている国もない。また、雑誌ほど時代の世相や風俗を表現して、気軽に触れる媒体もない。TVやラジオだと、見たい、聴きたいと思う番組が簡単には検索できない。雑誌ならば、うまくジャンル別に整理して、教室に並べるだけでいい。決してきれいに飾ったりせず、誰でも自由に触れて、自由に読んでもらえる、雑誌とはそんなメディアだ。デジタルアーカイブもいいが、デジタル化するのに無用な費用がかかりすぎる。老若男女を問わず、ふらっと立ち寄れて、昔を懐かしんだり調べ物をしたり、コーヒーを飲みながらでもいい、自由な雰囲気や雑談で雑誌に触れることのできる雑誌専門の図書館。読み終わった雑誌は捨てないで是非、この図書館に寄贈してもらおう。時間はかかるが、過去の雑誌まで含めて、日本最大の雑誌の種類と蔵書を誇り、気軽に雑誌に触れられる専門図書館。アーツスクエアの象徴にはならないだろうか。

(ぴあ株式会社 取締役 営業開発部長)

ちよだアートスクエア（仮称）に期待する

寺 脇 研

徳川幕府による江戸開府以来、400年以上にわたって千代田区は日本の中心であり続けています。政治や文化・物流・情報等の拠点であるこの地区には、長年にわたって様々な人々が集まり活動を繰り広げてきました。それらは麴町、猿樂町といった数多くの特色ある地名から分かるように、幅広い分野に及んでいますし、多様な施設が今日まで整備され続けています。

このような多くの貴重な文化的・歴史的資源をもつ千代田区が、それらを有効に活用した街づくりを進めることを目指し、今般、ちよだアートスクエア構想として纏められたことは大変意義あることと考えます。

文化庁では、「地域文化で日本を元気にしよう！」という方針のもと、各地域における様々な文化芸術活動の振興・支援に努めており、その一環として関西地区の2府7県3政令市や経済団体、各種団等とともに「関西元気文化圏」を進めています。また、文科省が現在、丸の内地区に移転していることを契機に、同地区の企業等と「丸の内元気文化プロジェクト」も実施しているところです。いずれにおいても「文化」をキーワードとした多彩な活動が年間を通じて実施され、多くの方々の参加を得ています。

このように、既に千代田区では先進的な取り組みが行われています。その中であって、新たな構想を立ち上げられたことは地域の更なる魅力の増進に官民一体となって努めていこう、という姿勢の現れであり、地域の更なる「文化力」向上に向けた取り組みとして大きな期待を寄せています。

是非、行政側では多様な提言が盛り込まれた本構想の実現に向け、真摯な取り組みを行われることを願っています。文化庁としても、本構想を全国に周知することを始め、その支援に努めて参る所存です。

千代田区の益々の発展を心からお祈りします。

（前文化庁文化部長）

「千代田の文化を千代田ブランドとして発信する場をつくる」

中川 典子

鳥取県の倉吉市に白壁土蔵群という観光スポットがある。江戸・明治時代になって建てられた白壁の土蔵群は当時の産業の中心だった。その面影は今に残っており、建物を生かして、造り酒屋、工芸館、一般開放の町家などとして、歴史とともに培われてきた文化・芸術を伝えている。その土蔵群を中心に、昔の長屋を感じさせる区割りをした建物があり、はこた人形、竹細工、下駄などの特産品の実演販売や体験コーナーを備えた店、醤油醸造場、酒屋、喫茶店、蕎麦どころなどが集まっている。店においてある品々は、観光地土産にありがちな安っぽいものではなく、地元で育った確かな伝統工芸品である。そこへ行けば倉吉の文化が凝縮しており、希望すれば製作体験もできるし、地元ならではの食事もできるのが魅力だ。駐車場も完備しているから、ゆったりと散策できる。そこは、伝統を守る・伝える・育てるがそろった場所だと印象に残っていた。

昨年、アーツクエア検討会のメンバーに加えていただいて委員の皆様と意見交換したり、廃校になった学校を利用して世田谷区が作った「世田谷ものづくり学校」を見学したりした。「世田谷ものづくり学校」は学校跡地を創業支援の場として、若い人たちや企業に、広さに応じた安い家賃で貸し出し、創作活動を支援している。

そんな中で私は、千代田区のどこかに、倉吉の白壁土蔵群と「世田谷ものづくり学校」をミックスしたような場所ができないだろうかと考え始めた。千代田区の伝統を一堂に集め、伝統を守り・伝え・育てるというアーツクエアの基本構想にあう場所にするのである。

場所はどこがいいだろう？ 東京見学のコースの中に必ず入っている国会議事堂の近く、永田町小学校跡だったら国会見学と合わせてコースに組み入れてもらえる。

——などと考えていたら、検討会メンバーの一人、門田けい子さんが、震災後の神戸の小学校跡地に神戸の地場産業を集めた建物ができている、学校跡地だから敷地が広く、観光バスがいくらでも入るので、活況を呈しているというお話をしていた。神戸に伝わってきたチョコレートや焼き菓子の店、コーヒー豆輸入店、パン屋、中華料理店、靴屋などが、販売だけではなくものづくりの楽しさを教えてくれる店として、体験メニューも用意している。所在地の北野地区と、旧外国人居留地とを結んで走るトアロードは“神戸のハイカラ文化”発祥の地であり、震災復興の中でその文化を守っていると伺った。

神戸の例をヒントに、千代田区に育ってきた蕎麦や和洋菓子店、染物屋、紳士服の仕立屋、印毛屋、などの店にワークショップ的に入ってもらうことに加え、伝統芸能の舞台を作って練習や公演をしたり、小学生がジャズバンドの練習をしたりするなど

など、千代田区で力を入れたい文化コンテンツをそこに集める。それとともに、文化施設の情報、催しの最新情報などが、冊子やパソコンでの検索ですぐに取り出せる場所にする。そんなことはできないだろうか。

道府県からのアンテナショップが東京目指して集まっている。逆転の発想で、千代田区の文化のすべてはそこへ行けばわかる、という場所にするのである。

千代田区民の中でさえ情報不足で、どんな文化財があるか知らない方も多いと思う。うずもれさせないためにも、全国の人に見てもらうことで励みになり、千代田区の活性化につながるのではないだろうか。

アートスクエアといっても、楽しくなければ、魅力的でなければ、人は集まらない。

(青少年委員会会長)

千代田アートスクエア構想について

西野 万里

私たちは人類の進歩の結果もたらされた最先端の粋を集めた都市で豊富な消費財や便利な家庭電化製品に囲まれて生活している。一見すると豊かで満ち足りた生活である。しかし、本当にそうであろうか。不便な地で、食べていくのが精一杯の貧しい生活に追われている人々と比べて、本当に豊かな生活を楽しんでいると胸を張って言うのであろうか。

否である。都会での便利な生活と引き換えに、私たちは澄んだ大気、静けさ、美しい星空、小鳥の囀りなど多くのものを失い、その結果、生活の質が知らず知らずのうちに侵食されていると言わざるを得ないからである。

これらの失われたものを取り戻すことは難しい。しかし自然環境に劣らず私たちの心を豊かにさせ生活の質を高めてくれるものに文化、芸術があると考え。幸い千代田区内で人々は容易に文化遺産や芸術活動に触れることができる。有形・無形の文化財、美術館やコンサートホールもそこかしこに存在するうえ、住民に加えて昼間人口に属する勤労者や学生などのなかに文化・芸術活動に造詣の深い人々も多いはずである。

そこで「昼間区民たる勤労者や学生」を取り込んで、「本来の千代田区住民」に加え、その全体を「千代田アートスクエア区民(以下千代田A S区民と呼ぶ)」と定義して、両者を対象とする「アートスクエア」活動の展開を提案したいと考える。活動の目的は、通常のハード面からの生活環境の整備に加えて、ソフト面からの生活環境の質の向上に寄与するために、千代田A S区民が文化・芸術活動に一層、容易に親しむ環境を整備し、支援することである。

昼休みやアフター5などに、公園・空き地、大学や企業のオープンスペースなどで小コンサートや演劇上演、屋内会場での絵画教室や展示会などの催しの支援、そしてこれらのうち評価の高い活動を選び、年に一定期間にフェスティバルでアンコールし、優れた活動を表彰することも考えられる。さらに既存のコンサートホールや美術館での活動やアクセスに関する情報提供や、これらの施設と提携したA S区民のためのイベントの計画等も考えられる。

(明治大学商学部教授)

千代田ならではの文化芸術の拠点を

林 勇

私は、平成15年に「千代田区文化芸術振興施策に関する懇談会」に委員として出席し、江戸開府400年記念事業を中心に、千代田区の文化芸術についての意見を述べさせていただいた。

その際に、千代田区は、山王祭や神田祭を中心に、地域が大いに活性化していた時代背景があること。また、「江戸しぐさ」という、江戸時代の精神性を反映した、粋で品格のある成熟した文化を持ち人々が暮らしていたという、すばらしい財産があることを強調したことを覚えている。その意味で、アーツクエア検討会に参加し、千代田区の魅力を改めて見直すきっかけにさせていただきたいと考えている。

検討会の当初は、アーツクエアの設置場所や規模が示されない中で意見を求められ、私なりに困惑したことを覚えている。しかし、千代田区が江戸時代から受け継いできた様々な文化を、今日の文化と合わせて発展させるということの重要性を、改めて認識し、千代田区の未来を考える最適な時期にきていると思えるようになった。

その源を、現在に受け継ぐ意味で「アーツクエア検討会」の様々な分野で構成される委員のもとで、方向性を示し、基本構想として位置付けることは、千代田区の観光施策を考える上でも大変重要な「指針」になると考える。

私も、伝統産業に携わっている関係から、伝統芸術・文化の継承という視点を含め、意見を申し上げた。アーツクエア検討会の構想により、千代田区にかかわる全ての区民を中心に「千代田の心意気」が広がり、地域に良い意味での刺激を与えることを大いに期待したい。

(江戸天下祭運営委員会会長)

《ちよだASアワード》の創設を

原 一 平

実現性という「ものさし」を、いったん脇へ置いて、私は次のような「夢」を見ています。

AS区民(在住者・在勤者・在学者)が、アートの広大な世界を「識る」「考える」「(暮らしに)取り込む」場として、アートスクエアを活用する。このことをスクエアの第一ステップと位置付けるなら、第二ステップはスクエアを「創る」場として活用すること、これ以外には考えられません。

検討会では、「創る」場としての機能について、発表機会の設定、学校施設の利用などが提案されましたが、私はこれをさらに押し進めて、仮称《ちよだASアワード》、すなわち芸術各分野の「コンクール」の創設を提案したい。

芸術の世界においても、「第三者評価」の導入は「質の向上」のもっとも有効な手段です。観客・鑑賞者・読者という名の「第三者」の評価を得ることにより、作品は初めて自己満足の世界から脱皮できるからです。

「創る」行為は多種多様です。何を創るかによりコンクールを想定すれば、次のようになるでしょう。

空間を創る → ちよだ美術賞 ちよだデザインコンペティション
映像を創る → ちよだ映画祭 ちよだ写真(ビデオ)コンクール
文章を創る → ちよだ文学(文芸)賞
音で創る → ちよだ音楽祭
身体で創る → ちよだ演劇祭 ちよだ舞踊コンクール

私の「夢」は、仮称《ちよだ総合文化祭》の名のもとに、これら全てを一斉開催することですが、前期「第一ステップ」が定着してきた分野から実施、という考えの方が現実的でしょう。

また、実施にあたっては、

1. 作品募集の対象をAS区民に限るか、否か？
2. 作品の内容を千代田区に因んだものとするか、否か？
3. 審査を専門家に委ねるか、AS区民の投票によるか？

といった課題の検討が必要となりますが、こうした課題を真剣に議論すること自体、すでに有益な文化活動であることを自覚したいものです。

(日本大学芸術学部教授)

「自分の得意」を「発信」しよう！

服部 浩美

「^{マチ}町」から「^{マチ}街」が消えた

新しい街づくりというと、だいたい一律的になり、いままで重層的に存在していたその地域の固有の記憶がことごとく喪失されていく例が多い。歴史という時間を越えて重なってきた、異なる文化が混ざりあった不思議な空間がなくなる。人の営みがどんどんビルの中や部屋の中に囲い込まれていき、街から喧騒やニオイがなくなる。人は自分の中に閉じこもって外の世界を見なくなる。あるいは一方通行で外の景色を見るだけになる。生活の場である街の活気ある風景が無くなり、実感が持たなくなってきた空間がどんどん増えている。市場(いちば)のような双方向での人々の賑わいが無くなり、コンビニやショッピングモールのような無機質な機能としてのマーケットが増え、わたしたちの生活が消費する側に追いやられバーチャル化してきている。これが現代のさまざまな問題を引き起こしている。これでは生き生きとした関係性や場を生み出すことは難しい。本来街はそこに生活する人々がかかわり、遊びや仕事を通して生活の知恵を提供しあって成長し学ぶ場であった。ヒトやモノや生きた情報が行き来する文化生成の現場そのものだった。

「消費」から「生産」へ、その拠点としてのアートスクエアへ

アートスクエアがめざす方向は、関係を再構築することのできない「消費者」側に力点が置かれているわたしたちの生活を、関係構築可能な「生産者」側に力点を置く生活にシフトチェンジしていくことにあるのではないだろうか。

自分の得意を発揮しモノを造り、その過程を共に楽しみ、成果を売っていく、そこに人々のコミュニケーションとコミットメントがある。そういう社会の拠点を街中に創っていかうとする行為だ。たとえば釣りが好きで得意な人が釣り竿の作り方を教え、釣りの極意を知っている人は情報を共有し研究し、料理好きの人は魚の捌き方のコツや、素材を生かした調理法や食べ方を披露し食卓を囲んでともに楽しむとか、それぞれの知恵や素材や場を提供した人には講師料や材料費が支払われる。また千代田区は出版と印刷業、古本街や電気街、スポーツ店や楽器店、学校、美術館、図書館などの教育文化施設、挙げればきりが無いほど多様で深い潜在的文化を持っており、それぞれが連携し、個人の得意を社会化し他人に認めさせていくアイデアはいくらでもある。個人であれ、グループであれ、団体であれ、それらを生産に結びつけて顕在化し、街に繰り出していく、そういう行為をひとつずつ実現していくことが、街を復権していくことにつながるのではないか。アートスクエアは人々の多様な表現を生産する拠点になるだろう。

(千代田区専修学校各種学校協会会長)

「文化という名の財産」を地域に

藤原 房子

経済の起伏があったにせよ、曲がりなりにも平和が続いたこの60年、働き過ぎと批判された日本人も、各種の統計が示すようにその後半期にはレジャー時代とはやされて、貴重な余暇時間を手に入れた。大小を問わず自分の好きなことを楽しむ余裕が持てるようになった。今や現役世代はワーク・ライフ・バランスの時代、シニア層は素養豊かだ。

自由時間に取り組む趣味や遊びは個人によってまちまちだし、熱の入れ方もスケールも到達レベルも違いは大きいだろうが、ひそかに「私有」されている「文化という名の財産」は、想像以上に多彩で豊かなものになっていると私は想像する。

それらを個人的な仲間うちや狭い範囲で共有するだけではなく、もっと広い場所で、地域の風に吹かれながら、同好の他者と出会い、お互いに刺激し合って関心を深め、楽しみを分かち合い、興味をさらに高めることができれば、どんなにすばらしいだろう。そんな期待と構想を含めた場づくりが今回、行政の支援でできるとは実にうれしい。お客さまとして見物するだけでなく、主体として創り、演じる立場にもなれる。

千代田区内には住む人だけではなく、在勤・在学で国の内外から集まった個性的な人材が出会い、常に密度高く交流している。主人公をあえて「スクエア区民」と名付けたのはそんな人々の積極的な参加と役割をも期待しているからだ。

成功する条件はもろもろ整っているが、何といても白紙の状態から始まる先駆的な試みであり、モデルの少ない事業だから、参画する人々の知恵と汗とエネルギーを集めて、新しい方向を模索し、大胆に創造していく必要がある。難しいかもしれないが面白そうだし、やりがいもある。

本懇談会が示した骨組みに肉付けをしていただけそうな「スクエア区民」の面々が、手ぐすねひいて待ち構えておられるような気がしてわくわくする。とかく言葉だけであった文化行政が、こうして地域に根づき、さらに輪を広げたらすばらしい。

(ジャーナリスト)